



平成29年度 事業報告

1 日本財団支援金に関すること(詳細は別冊:日本財団支援金報告書参照)

(1)広報普及事業

- ①アスリート用テキストを新たに3,000部作成し、普及の基礎資料とすることができた。
- ②指導者テキストを新たに300部作成し、指導者の資質の向上を図った。
- ③日本財団支援金報告書を1,000部作成し、本連盟の活動内容を関係機関に紹介した。
- ④ホームページをリニューアルして、親しみやすく、わかりやすい内容に改善した。

(2)用具購入整備事業

購入用具	数量	備考
①バウンダリーボード	10組	○国内10拠点に用具を配置する計画であったが、大会開催も含めて、将来に向けての用具の効率的な活用という観点から、用具を継続的に保管でき、他地域への貸し出しを含めた管理体制が充実している国内6カ所【山形連盟、きさらぎJr、エフピコ八王子(2セット)、エフピコ福山(2セット)、熊本県連盟、大分県連盟】に集中的に設置し、当面10拠点をカバーしつつ、今後、設置場所、管理体制が充実した拠点へ移動させることで、当初目標の成果を達成できると考えている。
②スティック	400個	
③バック	200個	
④ゴール	20個	
⑤ヘルメット	300個	
⑥キーパー防具	24個	
⑦スティックチップ	100個	
⑧キーパースティック	20個	
⑨キーパーヘルメット	18個	

○大会や講習会等でこの用具を利用したものは3,000人を超え、普及に大変役立った。

○用具貸出のための用具貸与規程・貸出マニュアルを作成した。

(3)審判・指導者養成・交流事業

○全国各地で開催された諸事業27件に旅費を補助して事業を行った。

(4)全国大会開催事業

○東日本大震災・熊本地震の被災地から全国大会参加チーム補助を計画した。熊本チーム・宮城チームは残念ながら諸般の事情で参加できなかったが、福島チームが参加し、旅費の一部を補助し、震災復興の一助となった。

(5)通信・運搬事業

○購入用具を全国の拠点に配置することができた。

2 普及活動及び交流に関すること

(1) せたがやウキウキクラブフロアホッケープロジェクト

○平成29年4月17日～平成30年3月18日の間14回開催して、延べ287人の参加者があり、前年より126人増加した。指導者の派遣は前年同数の延べ45名で実施した。

(2) 指導者養成支援

- ①新潟県江南高等特別支援学校での講習会を2回実施し、指導者を派遣した。
- ②千葉県の特別支援校の教員を対象に講習会を2回実施し、指導者を派遣した。
- ③目黒区の特別支援校の教員を対象に講習会を実施し、指導者を派遣した。
- ④川崎市の障がい者スポーツ講習会に指導者を派遣した。

(3) SON体験会支援

- ①SON・新潟、富山が主催する体験会等に指導者を派遣した。
- ②SON・東京、神奈川、千葉が実施・協力する体験会等に指導者を派遣した。

(4) その他体験会

- ①拠点として用具を設置した地区で、体験会等の開催が容易になった。
- ②「小田原スポーツフェスタ2017」に指導者を派遣した。
- ③「小田原里山里海FH体験会」に指導者を派遣した。
- ④「かながわパラスポーツフェスタ2017」に指導者を派遣した。
- ⑤「勇気の翼」のイベントとともに、恵比寿ガーデンプレイスで体験会を行った。
- ⑥「寺子屋ひがしすえパラスポーツ体験会」の体験会に指導者を派遣した。

(5) 年次報告書の発行およびホームページの充実

○平成28年度年次報告書を発刊(10月)するとともに、ホームページをリニューアルした。。

(6) 用具の貸出と管理について

- ①用具購入希望者に取り扱い業者の紹介など実施。貸出状況は別表のとおり。
- ②貸出について策定した諸規定に基づき、有効な管理運営体制が整備された。
- ③バウンダリーボード貸出

【SON東京、SON新潟にバウンダリーボードの貸出をおこなった。】

(7) 新たなフロアホッケー普及への取組み

- ①東京都の特別支援校教員が研修会でフロアホッケーを体験し、競技の普及へ歩み始めた。
- ②神奈川県自治体がフロアホッケーに関心を持ち、数度の体験会を実施した。

3 指導者の養成、認定、登録に関すること

- (1) 平成29年度中に新たに認定になった新規インストラクターは、3名（S種1名、A種0名、B種2名）であった。
- (2) 平成30年3月末現在の登録インストラクター数はS種が46名、A種が17名、B種が64名の合計127名となっている。
- (3) S種は「知的障がいのある人を対象にした体験会でも単独で指導できるインストラクター」A種は「障がいのない一般の人を対象にした体験会を単独で指導できるインストラクター」B種は「S種A種のインストラクターと一緒に体験会で指導できるインストラクター」と区分している。
- (4) 単独で指導のできるS種、A種のインストラクターは63名となるが、地域（都道府県）別の内訳は、長野10名、山形8名、熊本8名、神奈川7名、岐阜6名、東京5名、千葉4名、茨城2名、山梨2名、新潟1名、富山2名、埼玉、群馬、大阪、徳島、高知、福岡、長崎、佐賀が各1名という状況である。
- (5) 連盟の支部がある地域（県）では、ある程度の人数のインストラクターがいるが、それ以外の地域ではまだ少ないのが現状である。インストラクターの認定数は、増加しているが、派遣依頼のある地域に偏りがあるため、登録してもなかなか実際に活動できていないインストラクターも少なくない。また認定に必要な十分な経験やスキルを持ちながら登録をしていない指導者も少なくない。今後は多くのインストラクターに活動してもらえよう体験会の機会を増やしていく。

4 審判員の養成、認定、登録に関すること

- (1) 平成29年度はレフェリー講習会、クリニックを7回開催し、93人が受講した。また、受講生も含めて2級から1級へ1人、3級から2級へ12人それぞれステップアップした。今後は新人レフェリー養成とともにレフェリー技術のスキルアップのための講習会・クリニックを開催していきたいと考える。

- (2) 外部への協力として、スペシャルオリンピックス日本から12月に八王子市で開催された関東ブロックフロアホッケー大会へのレフェリー派遣の依頼があり、5名のレフェリーが参加しSOのレフェリーと意見交換することができた。

5 フロアホッケーを通じた地域の交流と絆づくりの促進

○東日本大震災復興支援「笑顔の絆フロアホッケー交流事業」の継続として「伊達市小学生サマーキャンプ」を開催した。

時 期：平成29年8月9日（水）

場 所：長野県南佐久郡南牧村南牧小学校

参加者：伊達市小学生28名、南牧村小学生9名等 45名 スタッフ6名

6 フロアホッケー競技会の開催

（日本フロアホッケー連盟主催の大会）

- (1) エピコ杯第12回全日本フロアホッケー競技大会の開催
平成29年10月21日（土） 東京都葛飾区奥戸総合スポーツセンター
- (2) 第7回ユニバーサルフロアホッケー中国四国大会の開催
平成30年2月10日（土） 広島県福山市「ローズアリーナ」
- (3) 第7回関東甲信越フロアホッケー大会の開催
平成29年6月10日（土） 長野県長野市ホワイトリング
- (4) 第7回ユニバーサルフロアホッケー九州大会
平成29年11月19日（日） 熊本県熊本市 中村学園大学